

(令和5年12月静岡県議会定例会)

田中 照彦 議員(ふじのくに県民クラブ)の一般質問 に対する答弁  
(質問日:2023/12/11 2番目)



答弁者 : 050健康福祉部長

通告番号 : 5-()-

関係所属 : 健康福祉部  
健康増進課

キーワード : 5 健康寿命の延伸に向けたフレイル予防について

質問要旨 : 本県の健康寿命はトップクラスに位置している。社会参加をしながら、いつまでも元気に活動するためには、フレイルの予防・対策が重要である。フレイルは「身体的」「精神・心理的」「社会的」と大きく3つの種類に分かれており、フレイル予防の柱となるのが「運動」「社会参加」「栄養」である。特に、新型コロナウイルスが流行する2019年までは、通いの場への参加率は確実に増え続けていたが、2020年の緊急事態宣言を機に外出や活動を自粛するようになり、フレイルに大きな影響を及ぼしている。外出自粛の長期化で高齢者の閉じこもりや健康への影響が懸念されており、高齢者の体力や認知機能の低下など健康二次被害への対策が早急に求められる。このような状況を踏まえて、高齢者に対し、その実態を把握し、リカバリーする取り組みが必要と考えるが、県の見解を伺う。また、「栄養」に関してはオーラルフレイル予防が重要である。オーラルフレイルは、嚙んだり、飲み込んだり、話したりする口腔機能が悪化すること指し、早期の重要な老化のサインと言われている。それらの機能が悪化することで、食生活に支障を及ぼすなど、全体的なフレイル進行との深い関係も指摘されている。県はここ数年、オーラルフレイル予防の取り組みを進めていると認識しているが、その効果や課題について伺う。

---

健康寿命の延伸に向けたフレイル予防についてお答えいたします。

県が実施する調査では、令和元年度の通いの場への参加者数は約9万5,000人でありましたが、コロナの影響により令和3年度は約8万5,000人となり、高齢者が交流の場に参加する機会が減少することによる運動や認知機能の低下が課題と考えております。

そのため、県では、通いの場への参加者の増加に向け、健康づくり応援サイト「ふじのくにむすびば」において、県内各地の通いの場の活動状況を情報発信し参加を促すとともに、通いの場の魅力の向上に向けて、市町等の職員を対象に活動の好事例の共有と情報交換を行う場の設定や、歯科衛生士、管理栄養士など通いの場で指導を行う専門職のスキルアップ研修に取り組んでおります。

オーラルフレイルの予防につきましては、地域で歯や口の健康づくりのボランティアとして活躍する「8020推進員」と連携しながら、正しい歯みがきの方法や定期的な歯科検診を働き掛けるとともに、口腔機能の低下とフレイルの関係性を説明したリーフレット等を県歯科医師会とともに作成し、各地域で市町等が実施する介護予防教室などで活用しております。その効果として、80歳で自分の歯が20本以上ある方は、後期高齢者歯科健診が始まった平成28年度の60.2%から、令和4年度には69.8%へ増加しております。

一方、課題としては、オーラルフレイルの県民の認知度は24.8%と低いため、「8020推進員」の養成数の増加や、より幅広い世代にフレイル予防を周知するため、SNSを活用した動画配信などに取り組んでまいります。

県といたしましては、市町や県歯科医師会などの関係団体と連携してフレイル予防を推進し、健康寿命の更なる延伸に積極的に取り組んでまいります。

以上であります。